

## 学童保育指導員研修／修了レポート

No.	21—226	氏名	鈴木 美幸
研修科目	専門研修「学童保育の子どもと文化的・芸術的生活づくり」		

## ○テーマ「受講して今後の学童保育実践にどう活かすか」

文化的・芸術的な生活づくりが必要なのか？と聞かれたら迷わず必要と答えるだろう。手づくりおやつ1つとっても、夏は冷たい物、冬は暖かい物というように、季節感を大事にしていることは文化的な生活づくりの1つと言えるだろう。風の子で行う七夕、夏祭り、クリスマス会、ハロウィンパーティー、豆まき、卒所式のようなイベントも文化的な生活づくりと言えると思う。

では、芸術的な生活づくりと言われると……。思い当たる節がない。今回の研修のように、紙芝居等は、今までやってきたことがない。私が少人数の子どもたちに読み聞かせをしたことはあっても、子どもたちが自発的に紙芝居のようなものをしたことも、またやってみようと思っ掛けをしたこともなく。今後そういったことをするとなっても、できるのだろうか？いやできないよな……。と逃げ腰になってしまうが、今の私に何ができるのか？と自問自答したところ、指導員だけで紙芝居、読み聞かせならば、役を割り振れば今回の最終日にやったような形できるのではないか？でもこれは、指導員だけで完結してしまい、ここから子どもたちが紙芝居をやりたい！にもっていけるのだろうか？いや、かなりハードルが高い。ではどうすればいいのだろうか？答えが出ない。

風の子クラブでは、毎年12月にクリスマス会でケーキのスポンジにデコレーションして楽しむイベントがある。1年生から6年生までの異学年で4人1組の班をつくり、学年関係なくそれぞれが意見を出し合い、生クリーム、果物等をデコレーションしていく。デコレーションができれば写真を撮り、4等分にして食べるという流れで進めていくイベントだ。今年度は1人1個のロールパンに、各自が好きなようにデコレーションして食べる進め方にした。みんなが楽しそうにデコレーションしており、他の指導員と来年度も1人1個のケーキでいいね！と話をしていたのだが、とりあえず確認の意味も込めて高学年に4人がいい？1人がいい？と聞いてみた。すると5年生と4年生の男の子は「4人がいい」と即答。え？と思い、違う高学年の男女にも聞いたところ「4人がいい」と即答。では低学年に同じ質問を……。やはり「4人がいい」と。あれ？1人でも楽しそうにやっていたのに何で4人がいいの？と疑問に思ったが、やはり1人で黙々と好きなように進める楽しさより、生クリームがあまり好きじゃなくても、自分の意見が全部通らなくても、飾りつけがちょっと変になっても、ケーキがちゃんと4等分にならなくても、4人でワイワイとはしゃぎながらやることに意味があり、4人でデコレーションするからこそその達成感や満足感や楽しさが得られるのだなと思った。なので、文化的や芸術的という言葉にとらわれることなく、子どもたちが達成感、満足感、喜び、楽しさを得られる保育内容(イベント)に意味があるのだと思った。今回の研修は、タイミングよく今後のクリスマス会を考えるヒントにもなった。そしてクリスマス会だけでなく、日々の保育やイベントにおいて、満足感や達成感を頭の隅っこにおいて考えていきたいと思った。

講師の杉谷先生の発する言葉は日々の保育のヒントになり、どんな保育をしているのか大変興味があったので、ももたろうクラブを見学させてほしいとお願いしたところ、ぜひどうぞと言って頂けたので、研修の一環として見学に行ってきます。